

● 情報教育 ●

幼保小中連携による望ましい ライフスタイルの構築

ノーメディアの日の取組を通して

秋田県 鹿角市立八幡平中学校（校長 澤口康夫）

- ① 地域ぐるみで子どもを育てる「八幡平地区PTA連絡協議会」
- ② 幼保小中が連携した「ノーメディアの日」の実践
- ③ メディア依存を防止する学習機会の構築
- ④ 「はちまんたい教育の日」における講演会の実施

鹿角市は、青森県・岩手県との県境に近く、秋田県北部の内陸側に位置したところにある。本校は、全校生徒99名、各学年1学級（特別支援学級1年2学級を除く）の小規模校である。

学区内には、小学校が1校、幼保が2園といった教育環境で、子どもたちは、ほぼ同じ顔ぶれで12年間ほど幼保小中の時代を過ごしている。

中学校では、教科学習がクラス単位になるため、学校生活の他の場面で、学年縦割りによる活動を多く設定し、豊かな人間関係の形成に努めている。

また、本校の特徴的な取組の一つとして、全校生徒縦割り班編成による、「八幡平ボランティアガイド」がある。

この取組では、観光客への応対を通して、他者理解が促され、自己有用感が高まり、人間関係力や表現力が育成されている。

I はじめに

八幡平地区PTA連絡協議会が設立されたのは、昭和63年のことである。地区に一つしかない八幡平中学校は、当時、学力も体力も他地区に劣り、非常に元気のない学校であったという。街頭でのあいさつも少なく、元気がない。地域の行事にも参加せず、子どもたちによる地域の活気も見られない状況であった。

かつては、学力も体力も県下上位の評価もあったのだが、なぜこのような状況になったのか、何に問題があるのだろうか、当時、協議会立ち上げに関わった保護者は非常に悩んだようである。

何度も議論を重ねるうち、学力・知力・健康・躰の問題は、親や家庭、学校や地域などが密接に関わっているため、中学校単独での取組では解決できる問題ではないと

いう結論に至った。

子どもは、周囲の環境に影響されながら成長していく。子どもの将来を、学校に押しつけるのではなく、地域全体がレベルアップしていく必要がある。

その中で、子どもたちや学校を支援していくことが八幡平地区に求められていることであり、課題として以下の3点をあげ、八幡平地区PTA連絡協議会で子どもたちの健全育成を後押しする活動が始まった。

- 地域一丸となった運動の展開
- 地域にある保育園、幼稚園、小学校、中学校それぞれの場における、一貫した人づくり
- 家庭の教育力、心身の健康、躰の向上

そして、設立から28年が経過した今年度、日本教育科学研究所の研究実践校の認定を受けて、地域ぐるみで「子どもとメディアの問題」に対して課題を共有し、その解決に取り組むこととなった。



◆ 八幡平地区PTA連絡協議会の総会

II 主題設定の理由

本校は、過疎化の進む農村部に位置し、学区内には、幼保一体型の施設と保育園がそれぞれ一つと、小学校が1校ある。そして、昨今この地区、学校でも問題となっ

ているメディアに起因するトラブルやメディアへの依存傾向が課題となっている。

本地区には、前述のように幼保小中が連携したPTAが組織されている。しかし、子どもたちの発達段階に応じた課題を共有する場がありながら、その具体的な解決には至っていない。

子どもたちが、望ましいライフスタイルを構築していく上で、メディアとの関わりについて、そこに関わる大人たちができるだけ早い時期から、課題や問題点を共有する必要を感じていた。

このことから中学校単独の取組ではなく「ノーメディアの日」の取組を通して、幼保小中が連携し、子どもたちの望ましいライフスタイルの構築を目指すことにした。

III 研究実践の経過

1. 平成26年度のあゆみ

〔7月〕 八幡平地区の子どもたちの生活習慣について、幼保小中が連携協議し、調査結果から、各園、各校ともに、「早寝」「テレビやゲームにかける時間の長さ」が課題としてあげられる。

〔12月〕 対応を協議し、八幡平地区PTA連絡協議会の取組として、会員に対し、毎月第一木曜日を「家族ふれあいの日」と定め、午後8時以降就寝までの時間は、テレビやゲームを止め、家族での会話や読書など、家族ふれあいの時間をもつよう働きかけた。啓発及び会員に対し周知徹底を図るため、「家族ふれあいの日」のポスターを作成し配布する。

〔3月〕 子どもたちにとって、メディアから離れる日の具体的な取組が必要であることを共通理解した上で、「家族ふれあいの日」の名称を、「ノーメディアの日」

と改め、次年度から、具体的な取組をスタートさせることを確認する。

2. 平成27年度のあゆみ

〔4月〕 中学校PTA総会と併せて、鹿角警察署から講師を招聘し、親子でメディアトラブルについて学ぶ「メディア講習会」を実施する。

〔5月〕 ・ 八幡平地区PTA連絡協議会総会において、「ノーメディアの日」の取組が正式に承認される。

- ・ はちまんたい「ノーメディアの日」をスタートさせるため、幼保小中の保護者に対して、八幡平地区PTA連絡協議会長名（以下協議会長）で協力を依頼するため趣意書を配布する。

- ・ 小中連携プロジェクト（健康生活P）会議で、ノーメディアへの取組について情報交換を行う。

〔6月〕 ・ 「ノーメディアの日」のポスターを作成、協議会長及び各園長名で会員に配布し家庭内掲示を呼びかける。

- ・ 会長名で公共施設へのポスター掲示を依頼する。

〔7月〕 ・ のぼり旗を作成、会長名で各園各校に配布し、「ノーメディアの日」1週間前から設置するように依頼する。

- ・ 中学校において「きょういくを考える会」を実施。PTA役員、学校評議員、地域に対し、「ノーメディアの日」の取組の周知を図る。

〔8月〕 地元事業所等で組織されている、八幡平経済懇話会から賛同を得、のぼり旗50セットを寄贈頂く。

〔9月〕 地区自治会長等で組織されている、地域づくり協議会からの賛同を得る。

〔10月〕 小中学校PTA各地区の支部長（地区代表）会議を開催し、のぼり旗の

設置と管理を依頼する。

〔11月〕 ・ 鹿角市教育委員会の助成事業を活用し、「メディアに起因する問題行動と生徒指導」をテーマに、小中合同職員研修会を実施する。

- ・ 「はちまんたい教育の日」を開催し、ノーメディアの取組について、小中学校児童生徒および幼保小中保護者の学習の機会を構築する。

〔12月〕 「はちまんたい教育の日」を振り返り、記録をまとめる。

〔2月〕 ・ 小中連携（P6）会議を開催し、「ノーメディアの日」の取組について、成果と課題を明らかにする。

- ・ 八幡平地区PTA連絡協議会役員会を開催し、今年度の取組を振り返り、課題と成果を明らかにする。

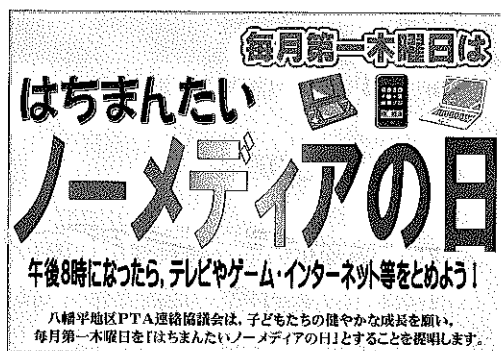
〔3月〕 幼保小中が連携して取り組んだ「ノーメディアの日」について、その成果と課題を明らかにし記録をまとめる。

Ⅳ 実践内容

1. 「ノーメディアの日」の取組

(1) 課題の共有

幼保小中の教職員が、メディアに対する課題を共有する場合は、八幡平地区PTA連絡協議会の役員会議が中心だが、その前に、



◆ 家庭啓発用ポスター

小中が連携し行われる会議がある。

小中連携の核になっているのが、両校の校長、教頭、教務主任で組織されている小中連携プロジェクト6である。この会議は、およそ2か月に一度行われ、各校の課題や児童生徒の情報が共有されている。

また、両校全職員が3プロジェクトにわかれ様々な教育実践が展開されているが、メディアに関する取組は、健康生活プロジェクトが担っている。幼保小の連携については、定期会議の開催と情報交換により、課題意識の共有が図られており、小中連携による課題共有とが相まって、保護者への働きかけが一貫して行われている。

以上のように、子どもたちに関わる地域の教育機関がメディアに関する課題意識を共有したうえで、幼保小中の保護者に対し、子どもたちのメディアへの依存が問題視されているという課題を周知するため、協議会長名で文書を作成し協力を依頼した。

趣意書の文面は以下のとおりである。

八幡平地区幼保小中では、「げんきもりもりカード」や「ライフスタイル調査」等の活用を通して、子どもたちの心身の健全な育成を目指しています。

各園、各学校の複数回にわたる調査結果から、「早寝」や「メディアと関わる（テレビやゲーム）時間が長い」などが課題であることが分かりました。

そこで、ご家庭の協力をいただきながら、子どもたちが規則正しい生活習慣を身に付けるために、「はちまんたいノーメディアの日」を定め、共通の取組をはじめることとなりました。

「はちまんたいノーメディアの日」は、子どもたちが、毎月第一木曜日に、テレビやゲーム、通信機器による情報交換等を止め、就寝までの時間に、家族で触れ合ったり、読書に取り組んだり、または自学自習に取り組むなど、メディアに接する時間をコントロールできるようにする取組です。

ご家庭におけるご理解とご協力のもと、八幡平地区全体で、メディアに依存する子どもの出現を未然に防ぎたいと考えております。

(2) 地域関係者・関係団体との連携

八幡平中学校では年に2回、地域関係者や学校評議員、PTA役員、時には生徒会執行部を交えて、本校及び地域の教育について意見交換する、「きょういくを考える会」を企画実施している。



◆ 第1回「きょういくを考える会」

7月に実施した会の折、学校評議員の一人から「ノーメディアの日」の取組は、幼保小中のPTA会員だけではなく、地域を巻き込んで実施した方が、効果があるのではないかとの意見が出された。

また、啓発活動にのぼり旗を活用していることから、各自治会にも設置できないかと意見をいただいたが、新規購入には費用がかかるため、独自の財源では十分な数を揃えることは難しいという結論に至った。



◆ 校舎玄関前に設置されたのぼり旗

後日、学校評議員の働きかけにより、地元事業主等で組織されている、八幡平経済

懇話会代表理事から、幼保小中の取組を支援できるか検討したいとの話があった。こちらの要望（のぼり旗の購入）を伝え、検討していただくことになった。

8月下旬、八幡平経済懇話会よりのぼり旗50旗の寄贈が正式に決まる。各自治会長等で組織されている、八幡平地域づくり協議会に対して、自治会への設置を依頼したところ、会長から趣旨に賛同いただき毎月のぼり旗が設置されることとなった。

以上のように、始まったばかりではあるが、八幡平地区における「ノーメディアの日」の取組は、学校のみならず地域関係者の支援のもと活動が継続されている。



◆ 初めて地域にのぼり旗が設置された朝

(3) のぼり旗等の設置

幼保小中学校では、毎月第一木曜日の「ノーメディアの日」にあわせて、1週間ほど前から、のぼり旗が設置され啓発活動が行われている。各地域でののぼり旗は、自治会長等から設置場所の指示を受け、小中学校PTAの各地区の代表（支部長）が、設置と撤去等を行い旗を管理している。

また、駅や郵便局、ガソリンスタンドで

も、ポスターの掲示やのぼり旗の設置に協力していただいております。「ノーメディアの日」の取組が、徐々に地域全体に広がってきていると感じている。

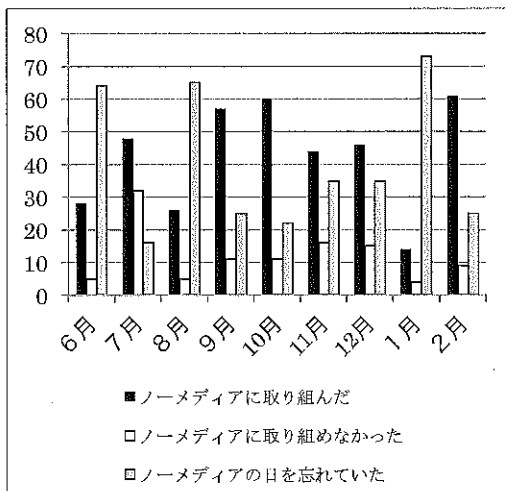
家庭においては、家族全員がよく目に触れる場所にポスターを掲示し、子どもたちと一緒に、ノーメディアに取り組むように、その啓発に努めている。

夜8時以降の時間帯は、家族にとってもテレビ視聴が多く見られる時間帯であり、子どものメディアに対する意識を高める上で、家族の協力が必要不可欠となっている。

(4) 各種アンケートから

下のグラフは、「ノーメディアの日」翌日に、中学生を対象に10ヶ月間行った事後調査である。結果からは以下のような傾向と課題が見られる。

〔ノーメディアの日：月別取組状況〕



《月別の傾向》

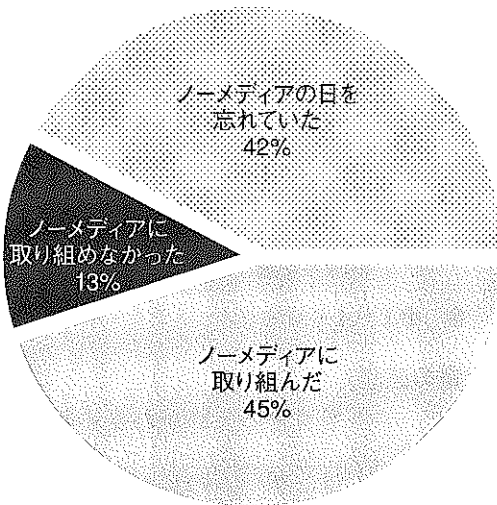
- 6月は、調査開始間もなかったことと、働きかけが弱かったこともあり、忘れていて取り組めなかったと回答する生徒が多く見られた。
- 長期休業（夏休み・冬休み）中には、

第1木曜日の「ノーメディアの日」を忘れてしまっている生徒が多い。

- 夏休みや冬休みなどの長期休業中を除くと、およそ5割の生徒が、その日ノーメディアに取り組んでいる。
- 年度末に向かい、徐々に取り組む生徒の数値が増してきている。
- 全月を通して、全校生徒の約1割が、「ノーメディアの日」と知りながら取り組むことができないでいる。メディア依存が危惧される。

下のグラフは、10ヶ月間の合計である。

〔ノーメディアの日：年間取組状況〕



《年間合計数、学年別による傾向》

- 取り組むことができなかった生徒の大半は、忘れていたことによるものである。
- ノーメディアの日と知りながら、取り組むことができなかった生徒も、1割以上存在している。
- 学年別では、低学年ほどノーメディアの日に取り組んでいることが分かった。

《対策》

- 長期休業中は、学級担任等学校からの

働きかけができないため、保護者の協力が必要不可欠。保護者の協力が得られるよう働きかけを強める必要がある。

- 「ノーメディアの日」と分かっていながら取り組めない生徒には、忘れていた生徒も含め、メディア依存による害を今一度学習する機会を設ける必要がある。
- 低学年ほど取組の状況がよいのは、小中連携が機能していることの表れである。小学校においても、幼保小の連携が機能しており、小1の段階で、スムーズに「ノーメディアの日」に取り組むことができている。
- 「ノーメディアの日」の取組は、家族の協力を仰ぎながら、実践を積み重ねることで、その成果が表れてくると考える。

2. メディア依存を防止する学習機会の構築

(1) 生徒の学習機会

本校では、秋田県教育庁の出前講座や、警察署の署員による学習会や講話を毎年企画している。平成27年度は、地元警察署から講師を派遣していただき、4月に行われるPTA総会に併せて、親子でメディアについて学ぶ機会を構築した。

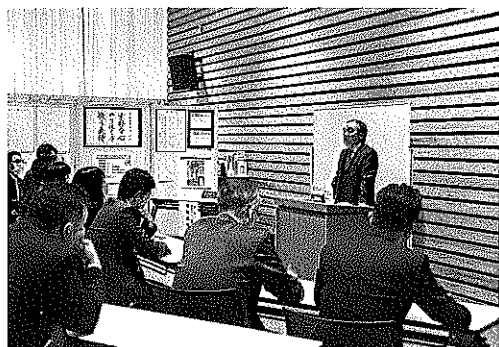
警察署員からの講話や情報提供は、犯罪に巻き込まれた事案を紹介していただくなど、実際に起きている問題だけに、生徒たちは皆真剣な眼差しで聴いていた。

保護者についても、メディアを介したトラブルについては情報が十分とは言えず、「ノーメディアの日」の取組と併せて、自分の子どもに、メディアに関わる時間を制限する上で、よい機会となったようである。

また、聴いた親子がその晩に話し合ったように、親子がともに学ぶ機会としては、PTA事業が最も適していると思われる。

(2) 教職員の研修

地元鹿角市教育委員会の助成事業（かづのパワーアップ事業）を活用して講師を招聘し、小中合同でメディアに関する教職員研修会を開催した。



◆ 小中合同教職員研修

今年度は、「メディアに起因する問題行動と生徒指導」というテーマで、神田外語大学嶋崎政男氏にご講演いただいた。

嶋崎先生からは、メディアに起因する、いじめ及び不登校の問題についてお話を伺うことができた。

小中合同の教職員研修会は、ここ数年続いており、ノーメディアへの取組も同一歩調で進めることができている。

3. 「はちまんたい教育の日」の取組

前述のように、八幡平地区には、幼保小中の保護者で組織されている八幡平地区PTA連絡協議会がある。

その活動の一つに、3年に一度開催される「はちまんたい教育の日」がある。

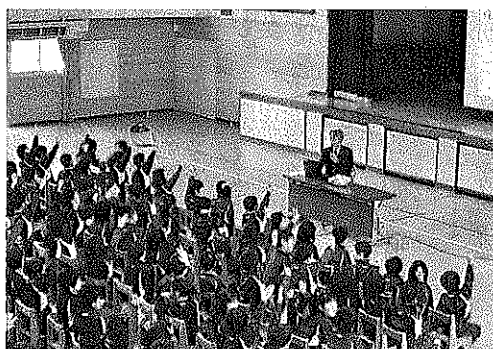
平成27年度の「はちまんたい教育の日」は、協議会で取り組んでいる「ノーメディアの日」の充実を図るために、親子でメディアについて学ぶ機会を設定した。

(1) ノーメディア学習会（小1～小4対象）

はちまんたい教育の日、八幡平小学校を

会場に、小学校1年生から4年生を対象に、秋田県教育庁北教育事務所社会教育主事を講師に「メディアとのじょうずなつきあひ方」というテーマで、低学年向けの学習会を開催した。

内容は、メディアには良いところと悪いところがあり、それを分かって使わないと「けんかになったり、事件に巻き込まれたりするなどの可能性があること」。「長時間接することで、身体や心に障害が出てくることも知っておかなければならない。」など低学年の児童にも分かりやすい内容であった。



◆ 小1～4年対象のノーメディア学習会

《児童の感想》

- ゲームを見すぎるとめがわるくなるのでやめたほうがいいとおもいました。だからわたしは、ゲームのじかんは一じかんにします。あとは、ゲームをやり過ぎないようにしたいです。(1女)
- ゲームやテレビをあまり見ないようにきをつけたいです。いつもは、1時間から2時間だけど、次からは30分くらいでテレビやゲームをやめるようにかぞくにもおしえたいです。(2男)
- 家でインターネットでマンガを見たり3DSでゲームをやっています。テレビの見すぎやゲームのやり過ぎは体によくないときき時間をきめたいです。(3男)
- メディアには良いところ悪いところがあることが分かりました。講師の先生のいうことをしっかりと守って、ノーメディアに取り組みたいです。(3男)

(2) メディア漬けで子どもは壊れる

はちまんたい教育の日、本会場となった八幡平中学校では、小学校5、6年生及び中学生、そして幼保小中の保護者を対象に講演会が行われた。

講師となったのは、NPO法人子どもとメディア理事の清川輝基氏で、「メディアで壊れる子どもたち～ネット社会の落とし穴～」と題して2時間の講演を頂いた。

企画の段階から、幼保の若い世代の親に、子どもに及ぼすメディアの害についてしっかりとした知識を身に付けさせたいと考えていたため、より多くの保護者が参加できるように、園児たちのアトラクションを組み込むなどプログラム構成を工夫した。

また、地域関係者にも周知し、多くの来校を得られたことは、本取組が、地域を巻き込んだ取組として展開していく上で、貴重な機会となったと考える。

清川輝基氏の講演内容及び事後に行った児童生徒、保護者らの感想は次のとおり。

《講演内容の要旨》

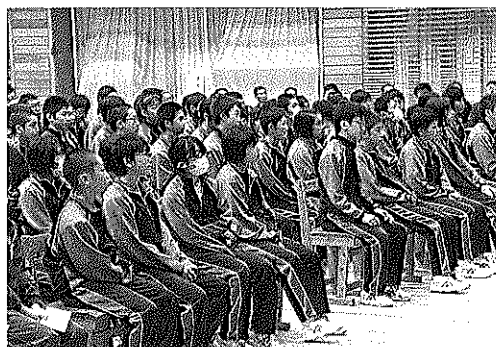
- 八幡平でノーメディアの日の活動が始まったと聞いた。メディア機器を買わされている人がいっぱいいる。それに対して、「待てよ、人体にどんな影響を与え

るのか、まじめに考えてみよう。」という動きが出てきている。

- 電子メディアが人体や脳にどんな影響を与えるのかまじめに考えた方がよいと医者になっている人が考え始めている。
- スマートフォンの長時間使用については、使った時間以上に成績が下がることが研究者の調査で明らかになっている。
- LEDライトは、エネルギーが最も強い光で水晶体を通過して網膜に到達し、黄斑が変性していく。高齢者の失明原因の第一位が加齢性黄斑変性症である。
- 最近小児科医は、「スマホに子守をさせないで」というポスターを待合室に貼っている。そして、「ほっといたら大変な国になる。」と幼稚園や保育園の玄関にも貼るように配っている。
- メディア機器を売り込んでいるトップは、自分の子どもにはスマホを使わせていない。ダメージを受けているのは全て子どもである。
- 母親がおっぱいを飲ませる時に、テレビを見ながら、スマホを見ながら、メールをしながらやっているのは、私たちの調査で8割ある。親もメディア漬けだ。
- 脳神経のいろいろな回路ができてくる大事な時期に、強烈な電磁波が出るものを赤ちゃんのそばで使い、人口の光を赤



◆ 清川輝基氏による講演会



◆ 講演会を聴く生徒

ちゃんの目に入れている。

- ・ 視神経ができるのは、小学校入学までの間である。授乳しているときに、赤ちゃんの目から25cm～30cmところにある母とのアイコンタクトで育つ。だが、今の母親の8割がアイコンタクトを拒絶している。母親の目は、テレビやスマホに奪われ、アイコンタクトは拒絶されている。そこから人生が始まっている。
- ・ 中学生は10年程で親になる。授乳しながらテレビを見たりスマホしたりすることは、アイコンタクトを遮断することである。そういうことを絶対にしないように、結婚して赤ちゃんが生まれたら思い出してほしい。赤ちゃんが一番影響を受けるということ。
- ・ メディア漬けが世界一早く長い日本の子どもたちは、背筋、腹筋が育たず、高校生に腰痛が多い。どこかの段階でダメージが出てくる。
- ・ 若者の間に新型うつが流行っている。会社に入ったら、全てにおいて言葉が必要で、言葉の力が育っていないと、必ず社会に出てから挫折する。会社に行かなくなる。
- ・ 自分を制する力が働かなくなる。ブレーキ機能が壊れる。必ず犯罪につながる。子どもたちの未来がそうならないために、仲間と協力、生身の人間に関わる。言葉で自分を表現することが必要だ。
- ・ 子どもは楽しい方に引っ張られやすい。それを止めるのが大人である。親であり、教師である。
- ・ 子どもはメディアにブレーキをかけることができない。誰かがブレーキをかける必要がある。「ノーメディアの日」は、お節介でも何でもなく、君たちの未来を育てることになる。

《児童生徒の感想》

- ・ 講話を聴いて、メディアによる脳への影響やスマホなどに使われているLEDの光を見続けると目に影響してくることが分かった。これからはメディアと向き合う時間を減らしその分、人と向き合う時間を増やしていきたいです。(小5)
- ・ メディアとの関わりが長いと学力が悪くなったりするのが分かりました。これからはテレビやゲームの時間を1時間以内にし、家族との時間を増やしたいと思います。毎月第一木曜日の「ノーメディアの日」には、テレビを8時から見ないようにしたいです。(小6)
- ・ 講演を聴いて私はとても驚いた。メディアは良くない影響があるということは知っていたが、まさか、学力だけでなく精神にも悪影響だとは思っていなかった。そして今、スマホを使って子育てしているお母さんがいるという現状も聴いた。自分は絶対にやらないと決心した。私もタブレット等の機器をよく使用している。今日の講演を聴いて、できるだけ実際に友だちと遊んだり読書をしたりたいと思った。「メディア」とではなく、「友だちや家族」とたくさん接して生活する方が楽しいだろうと思いき直すことができた講演会であった。(中3)

《保護者の感想》

- ・ こんなにメディアに浸かっている世の中、全く使わずには生活できないと思います。しかし、子育てや育児にスマホを使用することが、子どもにどのような影響を与えるのかを聴き、とても怖いことだと感じました。スマホの使用時間と学力がこんなに関係しているとは驚きました。勉強になった講演会でした。

(小学校保護者)

- ・ 親の責任は重いと思います。子どもはまだ判断できないのだから、親が与えたのなら見届ける必要があります。私の職場には、小さな子ども連れのお母さんがやってきますが、子供に注意を向けることもなく、手の中のスマホに釘付けということが少なくありません。「親のメディア漬けの延長」それが子どものメディア漬けだと思います。(中学校保護者)



◆ 講演を聴く幼保小中の保護者

(3) はちまんたい教育の日を終えて

今回の「はちまんたい教育の日」では、八幡平地区PTA連絡協議会が、地域の子どもたちの課題として取り組みはじめたメディア問題について、多くの保護者に対して、その学習機会を提供することができた。

児童生徒、保護者、教職員が、発達段階やそれぞれの立場で、メディア問題について考え、電子メディアに対する危機感を強く感じたことは、今後、はちまんたい「ノーメディアの日」の取組を進める上で後押しとなるものである。

V 研究の成果と今後の課題

1. 研究の成果

子どもたちに望ましいライフスタイルを構築していく上で、自由時間の多くを費やしているメディアとの関わりについて、研究指定を契機に、地域ぐるみで活動を展開できたことは今後の活動にとても大きい。

地域ぐるみによる「ノーメディアの日」の取組は始まったばかりで、生徒個々がメディアに関わる時間を、セルフコントロールするまでには至っていないが、幼保小中が課題意識を共有し、連携した取組を継続させることで、徐々に成果が見られるので

はないかと期待している。成果は、

- 幼保小中連携の取組がなされた。
- 地域ぐるみの取組に進展した。
- 若い親に学習機会を提供できた。

本研究が、幼保小中の枠組みを超え、地域を巻き込んで、メディア問題に取り組むきっかけとなったことが何よりの成果と捉えている。

2. 今後の課題

毎月の調査結果において、取組が不十分な生徒が半数以上いることから、引き続き学習機会の構築と、「ノーメディアの日」の啓発に努めなければならない。

そのためには、生徒自らがメディアに対する課題意識をもち、その解決のための主体的な活動を展開する必要がある。

また、保護者、地域においても、メディア問題に対する課題意識の共有を図るとともに、祖父母世代における学習機会の構築も必要であると感じている。課題は、

- 「ノーメディアの日」の継続
- 児童生徒による主体的な活動
- 地域住民への学習機会の構築

VI おわりに

八幡平地区PTA連絡協議会は、28年前、幼保小中学校の保護者を中心に、地域の教育力向上を目指して発足した会である。そして今年度、子どもたちのメディア問題に対し、協議会を中心に地域をあげて取り組みが開始された。子どもたちは地域の宝であり、元気の源である。その子どもたちの将来のため、地域をあげて取り組みだした八幡平の地域力を誇りに思う。

(文責：教頭 駒木利浩)

[現：鹿角市立花輪第一中学校]